

ホームルーム指導の現状と課題

荒井 一浩・吉野 聡

<キーワード> ホームルーム活動、ホームルーム担任、教育実習

要約 本校ロングホームルームは、行事の準備と事務連絡に追われている。しかし、担任、生徒とも自分のホームルームには関心を持っており、積極的に行事への参加について議論している様子もうかがえる。ただし、全校の中の一組織としてホームルームを位置づけることは意識されていない。

担任は、自分の話を生徒に聞かせたい、ホームルームで生徒の議論を組織したいと考えている。これに対し、生徒は、自分たちが計画を立てたい、レクリエーションゲームや球技大会などをやってみたいと考えている。

教育実習生は、自分の高校時代のホームルーム体験をもとに、ホームルーム指導を考えているように思われる。豊かな体験はアイデアを生む。

1 問題の所在

ホームルーム担任は、学習指導要領に基づき、年間計画にしたがって具体的内容を構成する。本校では、学年単位で年間計画や実践における担任間の調整が行われているが、実際の指導にあたっての担任相互の経験交流記録、日常的な指導内容の記録が紀要に報告される例は、多いとは言えない。また、ホームルーム担任教諭と生徒、担任教諭と生徒指導担当教諭等、そのおかれた立場によってホームルーム活動に対する考え方が異なるのは経験的に当然であるが、これらの違いについて具体的事象について考察し、検討・記述する機会は少なかつたように思われる。

2 仮説および調査目的

本稿では、課題を絞り、

- ・生徒が認識するホームルーム活動の実態
- ・生徒がホームルーム活動に期待する内容
- ・教員が認識するホームルーム活動の実態
- ・教員がホームルーム活動に期待する内容

以上4項目、それぞれの間には何らかの差が見られるか、簡単な質問への答をもとに現状を知る手がかりをつかみ、今後の指導計画立案資料を得ることとする。

毎週金曜日7時間目のロングホームルーム、月曜または火曜の放課後と木曜の昼休みに毎週2回行うショートホームルーム、研究室へ来室する生徒、廊下で呼び止めて立ち話等々、担任教諭と生

徒との間のコミュニケーション機会は、果たして「うまく」生かされているか、現状をできるだけ単純なかたちで知るために、調査項目をロングホームルームの時間に行っている活動を中心に限定することとした。

また、毎年、多くの教育実習生を受け入れているが、ホームルーム指導の実習を指導することまでは手が回りきらないのが現状ではないか。教科指導・少なくとも授業ができるように指導することが優先されるのは当然であるが、実習生が現場に出ていけば、すぐにホームルーム指導を行っていかねばならないのも現実である。しかし、実習でホームルーム指導を経験していないので、一人で受け持つことになったホームルームで何をしたらいいのかわからない、という状態では困る。ホームルーム指導実習を行うプログラムをつくる手がかりも、合わせて得ることができればと考え、主要な調査ではないが、本校に配属された学生からも意見をもらうことにした。

3 調査概要

1年生、2年生、3年生各2クラス、教員全員と9月上～中旬実習生118名を対象として調査を行った。生徒は全員を対象とするか、または統計的に抽出した母集団で行うべきであるが、今回は厳密な統計処理を行うことを目的としていないので、該当担任教諭独特の指導の影響が表れることを前提に考察を行うこととする。

表1

調査概要 平成14年9月実施

	対 象	有効回答	回収率(%)
1 年 生	87	86	98.9
2 年 生	87	84	96.6
3 年 生	86	75	87.2
教 員	56	26	46.4
実 習 生	118	103	87.3

調査項目1

今年度の4月から9月の間にどんなことをしたか。選択肢から選んでもらう。教員と生徒との間で行ったことの認識にずれがないか。教員は行ったつもりになっていても、生徒はそう思っていない、または教員が行ったつもりがなくても、生徒は「やった」と感じていることはないだろうか。

図 1

調査項目 1 本年度のホームルーム活動の時間 (LHR) には、主としてどのような活動をしていますか (いくつでも)

- 1.1 HR内の問題を議論
- 1.2 HRから全校に提起する問題を議論
- 1.3 行事への準備
- 1.4 修学旅行への準備
- 1.5 進路指導
- 1.6 事務的な連絡
- 1.7 担任教諭の講話
- 1.8 実習の先生の講話
- 1.9 席替え
- 1.10 教室などの清掃
- 1.11 球技大会
- 1.12 レクリエーションゲームなど
- 1.13 その他

調査項目 2

教員がやらせたいこと、生徒がやりたいことを選択肢から数を限って選んでもらう。

図 2

調査項目 2 ホームルーム活動の時間 (LHR) には、今後どのような活動をしたいと思えますか (3 つまで)

- 2.1 HR内の問題を議論
- 2.2 HRから全校に提起する問題を議論
- 2.3 行事への準備
- 2.4 修学旅行への準備
- 2.5 進路指導
- 2.6 事務的な連絡
- 2.7 担任教諭の講話
- 2.8 実習の先生の講話
- 2.9 席替え
- 2.10 教室などの清掃
- 2.11 球技大会
- 2.12 レクリエーションゲームなど
- 2.13 その他

調査項目 3

ホームルームの年間計画、および時間ごとの計画は誰が立てるのか、選択肢から選んでもらう。

図 3

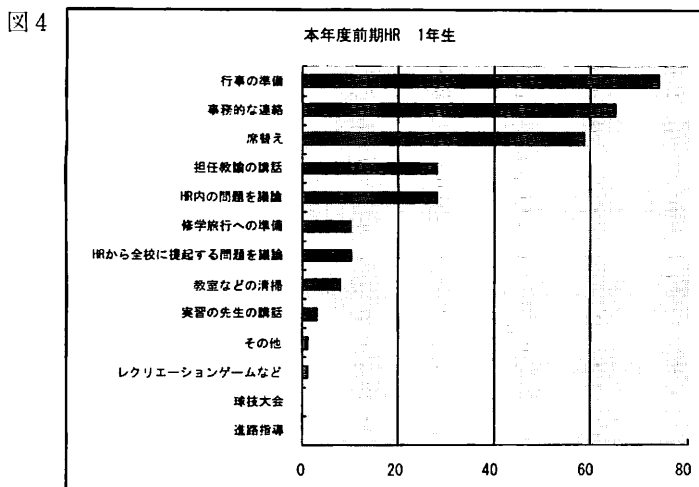
調査項目 3 ホームルーム活動の時間 (LHR) は、どのように計画するのがよいと思えますか

- 3.1 ホームルーム活動の時間 (LHR) の年間計画・学期計画は担任の先生がたてる
そう思う 思わない わからない
- 3.2 ホームルーム活動の時間 (LHR) の年間計画・学期計画は生徒が自主的にたてる
- 3.3 ホームルーム活動の時間 (LHR) の 1 時間ごとの内容計画は担任の先生がたてる
- 3.4 ホームルーム活動の時間 (LHR) の 1 時間ごとの内容計画は生徒が自主的にたてる

4 調査報告および簡単な考察

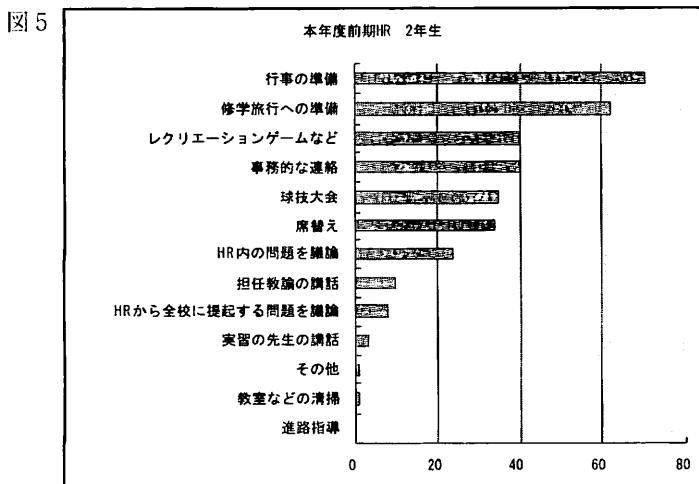
1年生 前期に何をしたか

球技大会、進路指導が行われていないのはそのまま数字に現れている。注目すべきは「HRから全校に提起する問題を議論」という項目の割合が低いことである。前期には、生徒会の中核の機関であるHR委員会が生徒会会則の改正案を各ホームルームで話し合うようにと呼びかけたが、生徒はそれほど意識していなかったように見える。



2年生 前期に何をしたか

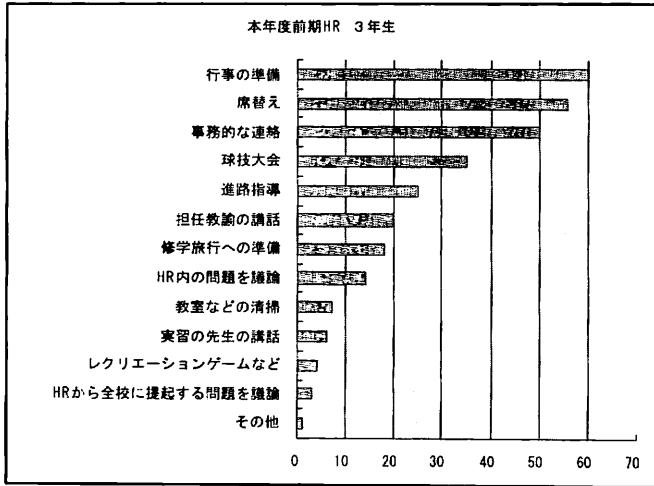
行事の準備、修学旅行の準備は高い数値を示している。球技大会は5月に行ったのだが、確かにしたと自覚している生徒は全体の三分の一ほどでしかない。「HR内の問題を議論」および「全校に提起する問題を議論」という項目は1年生とほぼ同様である。



3年生 前期に何をしたか

9月に行われた文化祭で各クラスとも演劇を上演している。そのための準備ということで行事の準備が特に高い値を示している。また、進路指導のポイントが高いのも3年生の特徴である。

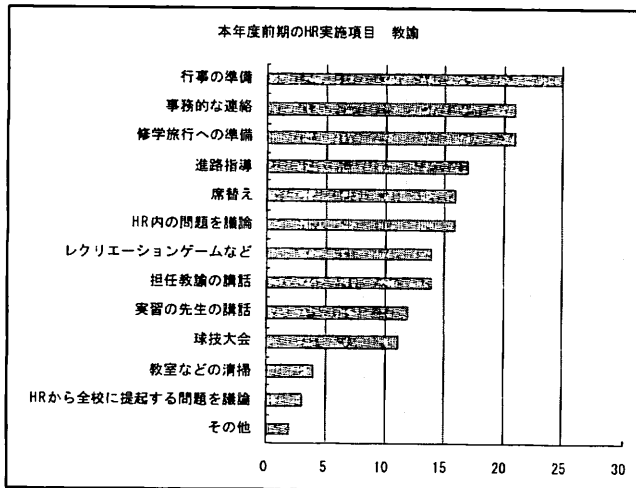
図6



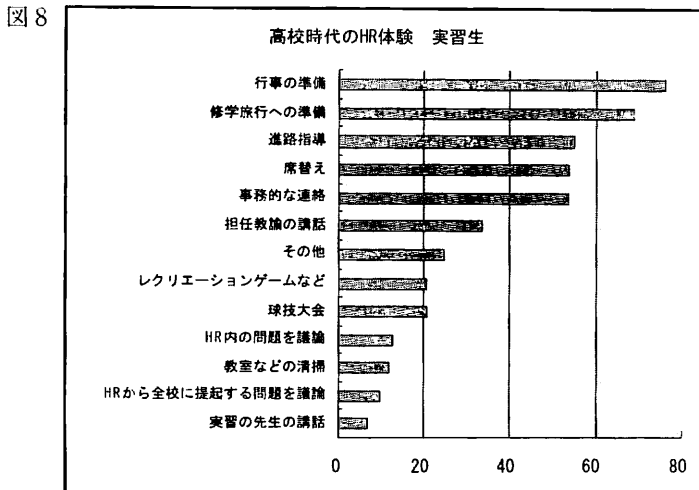
教員 前期に何をしたか

行事の準備、事務的な連絡、ホームルーム内の問題も議論してきたと思っている。「HRから全校に提起する問題を議論」という項目の割合は低い。担任が満足するようにホームルーム委員が問題点を説明できていなかったのではないかと考えられる。

図7



実習生 高校時代のホームルームの体験



行事の準備、修学旅行への準備、進路指導等、大きな違いは見られない。特色ある私立学校を除けば、学習指導要領にしたがって行われるホームルーム活動は、具体的な活動の内容に大きな差がなかったことが想像される。また、本校の活動として考えられることが、それらのほぼ全域をカバーしているのかもしれない。

以上をまとめてみると、全校的には行事の準備に多くの時間がさかれ、2年生では修学旅行の準備、3年生では進路指導に重点が置かれている。

土曜日がなくなり、完全週休2日となっているが、行事の変更は最小限にとどまっている。その分、ホームルーム活動への負担が大きくなっていると考えられる。特に、前期は4月の遠足、6月の体育祭、7月の林間学校（1年生）、9月に入ってすぐの辛夷祭と大きな行事が連続している。行事の成功をホームルーム活動が支えているとあってよいであろう。

1年生 今後何をしたいか (図9)

席替え、レクリエーション、球技大会、行事の準備と上位を占める。ここでも、「議論」はほとんどない。

2年生 今後何をしたいか (図10)

レクリエーション、球技大会、行事の準備、席替えと1年生と比べて順番は違うが上位を占める内容は同じである。

3年生 今後何をしたいか (図11)

やることがないから席替えでもしようか。3年生はもう球技大会の予定はないのだが希望は多い。1、2年生と比べて大きな違いは見いだせない。

図9

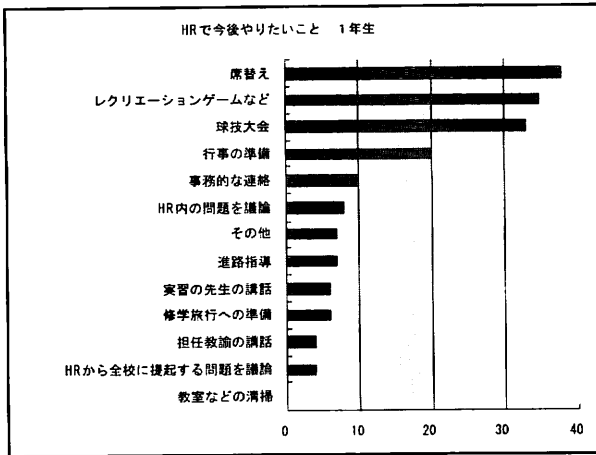


図10

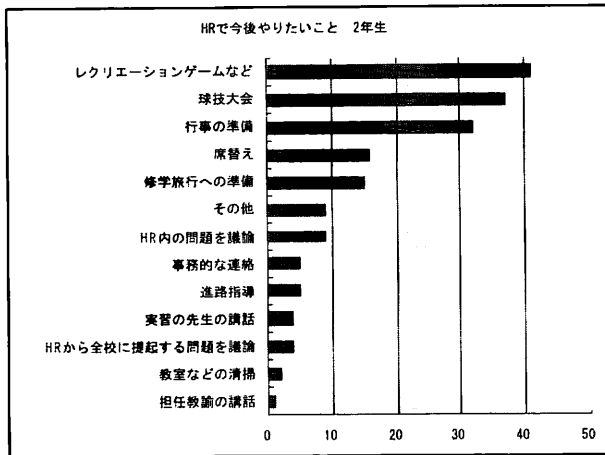
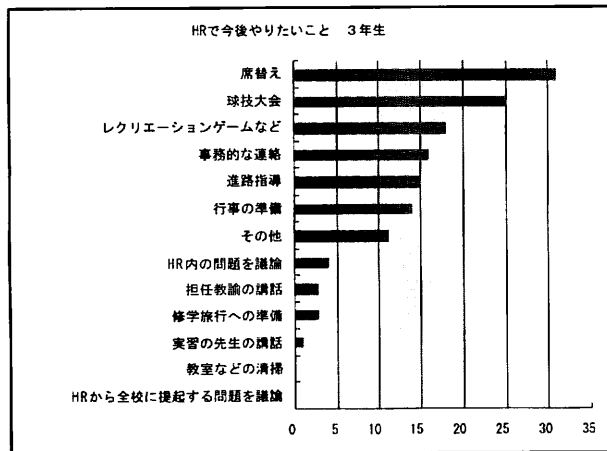


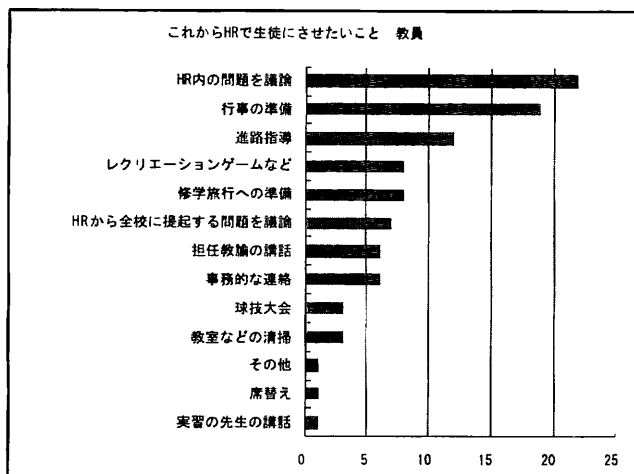
図11



教員 今後何をさせたいか

もっとも多いのは、「『HR内の問題を議論』させたい」である。生徒のやりたいことと教員がやらせたいこととの間にギャップのあることが分かる。また、教員の意識では進路指導も大きな位置を占めている。実習生については、あまり話をさせようと思っていない、生徒の方も実習生の話を聞いた覚えはないし、期待もしていない。

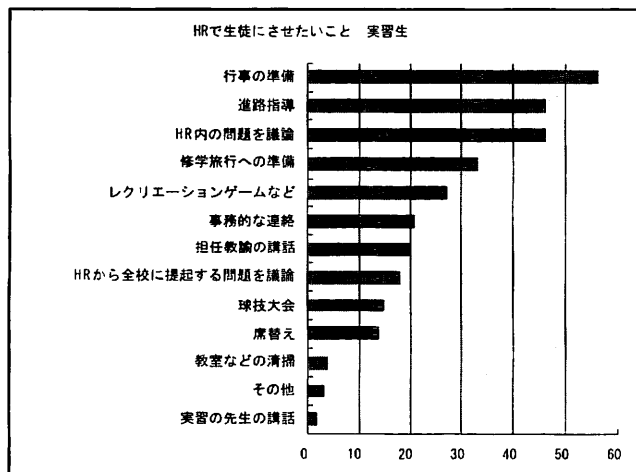
図12



実習生 ホームルームで生徒にさせてみたいこと

実習期間中に辛夷祭があったということも関連してか、「行事の準備」がトップになっている。次に「進路指導」。教諭ではトップだった「ホームルーム内での問題を議論」と続く。実習オリエンテーションでホームルーム活動のありかた・原則について指導をしていることも影響しているのか、生徒と教諭のちょうど中間的な意識を示しているとも見られる。

図13

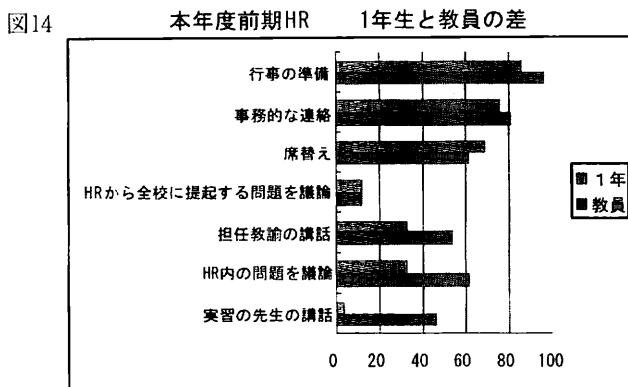


以上をまとめてみると、

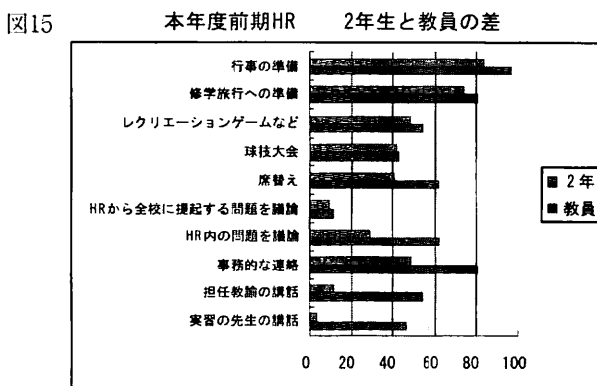
生徒の計画したいホームルーム活動内容は、球技大会、レクリエーションゲーム、教室の席替えなど、人間関係や親睦に重点が置かれている。いちいち面倒くさい議論はしたくないということか。

「先生方」との差を見るために、目立つところを挙げてみる。図13までは実数の表示であるが、比較のため図14以降はパーセンテージのグラフになっている。

まず、一年生と教員の比較である。グラフの上の方は余り差がないところ、下の方は差を見いだせるところを示す。行事の準備、事務的な連絡、席替えにおいては余り差がないが、担任の先生の講話やHR内の問題を議論、実習生の話などは大きな差が見いだせる。

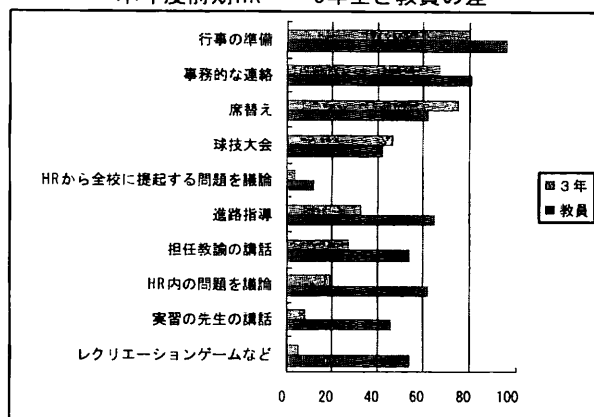


2年生では、行事の準備、修学旅行の準備、レクリエーションゲーム、球技大会などは共通の認識になっている。席替えについては、先生方の方は何でこんなに頻繁にやるのだろうかと感じている。ホームルームから全校に提起する問題を議論するという項目は、生徒・教員とも意識がない。担任の先生の講話という項目は、1年生と特徴的に比較ができる。1年生ではある程度残っているのに対し、2年生では聞いたことがないという回答になっている。



3年生になると、担任の先生の講話は多少心に響いているところがあると見ることができる。進路指導が本格的に入ってきていることもある。自分自身の問題として、だいたい先のことも考えることができるようになってきているということだろう。グラフ上方の今までしたことに関する意識は、1・2年生とあまりかわらない。

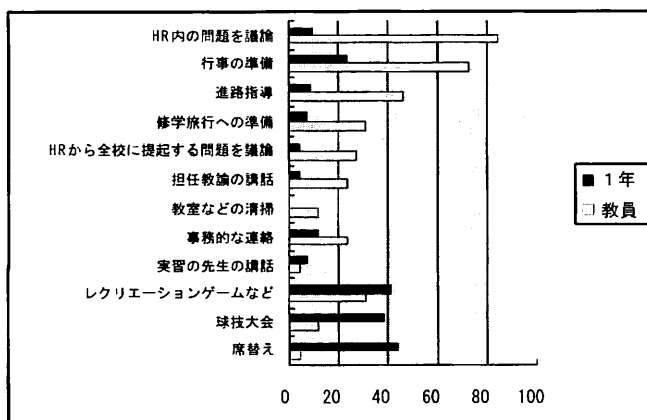
図16 本年度前期HR 3年生と教員の差



1年生 今後のHRについて

教員はHR内の問題を議論したい、進路指導を考えているが、生徒の意識は低い。対して、レクリエーションゲーム、球技大会などは生徒の意識が高い。席替えに関しては、教員はそんなことやっても仕方ない、SHRで十分間に合うと思っているのに対し、生徒はLHRでの重要な活動として位置づけていることがうかがえる。

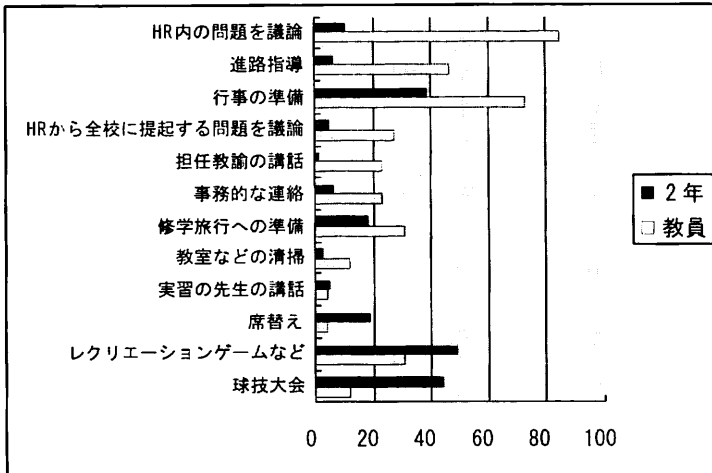
図17 今後のHRについて 1年生と教員



2年生 今後のHRについて

1年生との大きな差は見られない。やはり、HR内の問題を議論したいという意識はほとんどない。それに対し、レクリエーションゲーム、球技大会などは生徒の意識が高い。

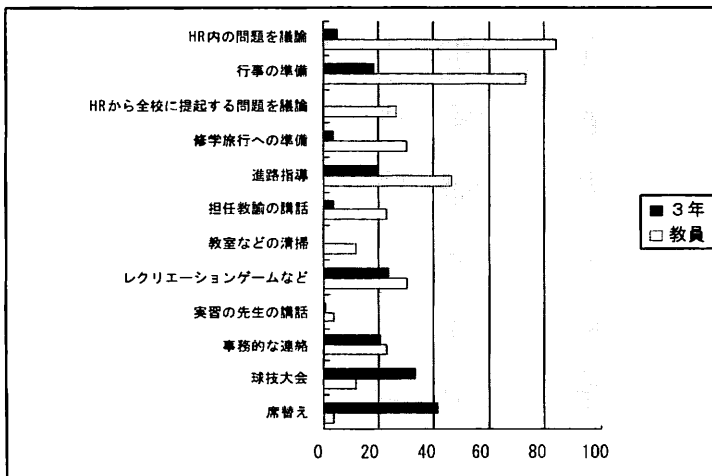
図18 今後のHRについて 2年生と教員



3年生 今後のHRについて

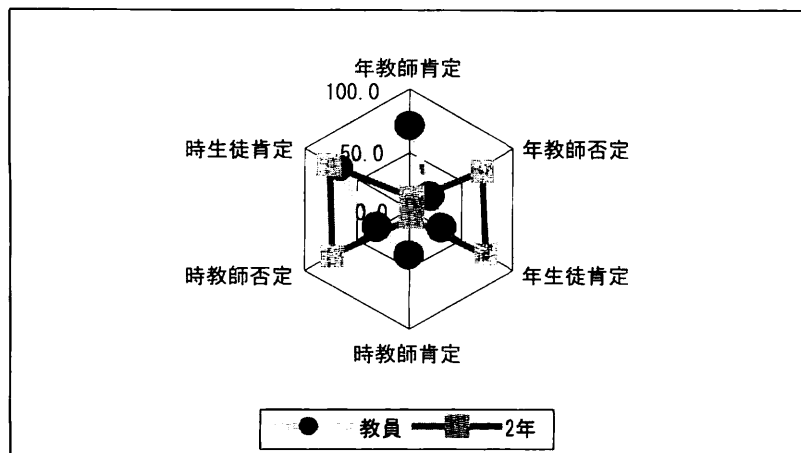
進路指導などは生徒の意識もある。特徴的なのは、教員の側で、レクリエーションゲームなどをやってもいいかな、という考えが見られる。生徒は球技大会をもう一度やりたいと考えている。生徒は席替えも重要な活動ととらえているが、席替えについて教員はほとんど意識していない。

図19 今後のHRについて 3年生と教員



LHRの計画は誰が立てるべきか

図20 LHRの計画は誰がたてるべきか 2年生と教員



この点は、2年生の調査結果がもっとも特徴的であったので、図20に示した。年間計画を教員が立てることにイエス、年間計画を教員が立てることにノー、年間計画を生徒が立てることにイエス、一時間の計画を教員が立てることにイエス、一時間の計画を教員が立てることにノー、一時間の計画を生徒が立てることにイエスという6項目についてグラフで示してみた。

生徒の意識は、年間の計画も一時間の計画も自分たちで立てたい、教員には立ててほしくないと考えているのに対し、教員の側は年間計画は教員が立てるが、一時間の計画はある程度生徒に考えさせたり、話し合っていていいだろうと考えていることがわかる。2年生はたいへん自信を持っている。1年生、3年生になると、多少自分たちで計画するという数値は低くなっている。1年生については、まだ、年間の計画についてはよくわからないというところもあるだろう。3年生では、進路指導等で学年集会が開かれるなど、生徒の方もある意味で割り切ってゆだねているところも感じられるのではないか。

実習学生の調査から

有効回答103名の内、LHRの経験がない、あるいは時間は設定されていたが実質的には自習時間だったと答えた学生が11名いた。

この11名と実習学生全体とで比較を試みた。調査項目は各々10項目となっている。調査項目1は実際にやったことのあるものをいくつでも○をつけてくださいということで数値を出したが、実習生全体では平均4.5個、未経験学生では平均1.8個となっている。

調査項目2はこれから何をしたいですか、という項目で3つまでという限定でつけさせた。ほと

んどの実習生は3つつけているが、数名この指示を見誤って多くつけた学生がいたので、実習生全体では平均3.0という数字になっている。未経験学生では平均2.3となっている。

表2

実習学生の回答から

LHR の経験がない、自習時間だった：11名

調査項目 1	回答項目数	実習生全体	4. 5
		未経験学生	1. 8
調査項目 2	回答項目数	実習生全体	3. 0
		未経験学生	2. 3

実際にLHRの経験がない学生は、これから何をしたいかという考えにも意識が低く、そういった学生が全体の1割を数えている。その学生が教育実習でもLHRを経験せずに教員になっていくと、現場に行ってもどうしていいかわからないといったことに陥ることが考えられる。

反対に高校生のとき、様々なホームルーム体験を経た学生は、自分の「楽しかった」ことから発想し、多様な活動のアイデアを生み出すことができるかもしれない。この点は次回の調査を試みる時、意識的にデータを集める価値があるのではないか。

もしもこの仮説が正しければ、生徒と教員が協力して活動内容を開拓していくことが、そのまま次世代の学校を発展させる原動力となりうるということだろう。

5 結論

- (1)本校のホームルーム活動は、行事の準備と事務連絡に追われている。しかし、教員、生徒とも自分のHRには関心を持ち、積極的に参加している。例えば、文化祭の準備のために、自分たちのホームルームが何をやるかということに関しては時間をかけて議論を積み重ねているのである。
- (2)しかし、全校の中の一組織としてホームルームを位置づけるというのはまだまだ先の話、今後の課題として考えていく必要があるだろう。
- (3)「ホームルーム内の問題を議論」した、と教員が思っているのに対し、生徒の側はそう思っていない。今後も教員は「ホームルーム内の問題を議論」をさせたいと思っているが、生徒はそう思っていない。

- (4)ホームルームの計画では、年間の計画は教員の側が立てると教員は考えているが、生徒は計画を自分たちで立てたいと考えている。
- (5)以上をまとめて、自分の話を聞かせたい、生徒が話し合うホームルームにしたいと考えている教員。生徒は計画は自分たちで、球技大会、レクリエーションゲームを中心に考えている。
- (6)実習生の現状については、ある程度明らかになってきたが、対応する課程・方法を考えるためには、さらに調査研究が必要であろう。

6 今後の課題

ロングホームルームをどのようにデザインしなおしていくかについては、まだ深く議論していない状態である。このアンケートの生徒の回答は9割を越え、実習生の回答も9割である。それに対し、先生方の回答は約半数にとどまっている。ホームルームを行うにあたり、何を目標とするかをすりあわせて、課題を設定していくことができるかどうか、この調査報告が議論のためのひとつの材料として使われればありがたいことである。

年間の計画は学校・学年ホームルーム担当教員がある程度お膳立てをしたうえで、一時間の計画については担任と生徒とで協力していくことにより、より充実したものが生み出されていく、といった姿が常識的理想像であると、教員と実習生は考えている。実習学生にも活動の発想から参加できるような構造的対応を考え始めてもよいかもしれない。

本稿は2002年10月25日大阪教育大学附属高校天王寺校舎で開かれた全附属高校部会生活指導分科会での発表資料をもとに起したものです。調査と報告を吉野が担当、草稿を荒井が担当、校正を二人で行いました。内容に誤りがあれば両名の責任です。末筆ながら調査および発表に際してお世話になった関係各位に心より感謝申し上げます。